

## 原子力規制委員会国際アドバイザーによる記者会見

- 日時：平成 24 年 12 月 14 日（金）11:10～
- 場所：原子力規制委員会庁舎 記者会見室
- 対応：アンドレ・クロード・ラコスト氏（Mr. André-Claude Lacoste）  
フランス原子力安全規制当局（ASN）の前委員長  
2007年の IAEA による対日総合規制評価サービス（IRRS）の団長  
リチャード・メザーブ氏（Dr. Richard A. Meserve）  
米国原子力規制委員会（NRC）の元委員長  
IAEA の国際原子力安全諮問グループ（INSAG）の議長  
福島原発事故の国会事故調査委員会における参考人  
マイケル・ウェイトマン氏（Dr. Mike Weightman）  
英国原子力規制機関（ONR）の機関長  
IAEA の福島事故調査専門家チームの団

### <質疑応答>

- 司会 どのアドバイザーにご質問されるかおっしゃっていただいた上でご質問をお願いいたします。通訳がおりますので通訳を介して日本語で回答します。では早速ご質問されるか挙手をお願いいたします。
- 記者 朝日新聞のニシカワと申します。まず、今日の今回の原子力規制委員会（NRA）と議論した後の印象、感想をお聞きしたいのと、ラコストさんに別の質問で、以前に IRRS（総合的規制評価サービス）で日本にいられて日本の規制をいろいろ御覧になられたと思うんですけど、今回新しく NRA が立ち上がってこの変化についてどのように見てらっしゃるかを教えてください。
- 司会 今日の議論の印象は三名の方に。
- 記者 はい。
- リチャード・メザーブ委員 まず、最初の質問しか答えられませんが、今回は NRA との最初の会議であって公開されておりました。是非、今日の会議が生産的であったことを望んでおります。皆さん、規制当局として、達成すべき重要な基本点について発言されまして、非常に知性に富んだ適切な一連の議論がなされたと思います。今回の対話が端緒となって、そしてさらに規制当局として機能する上でやっていくべき問題について話ができればと思っています。
- マイケル・ウェイトマン委員 ありがとうございます。私も今回非常にいい会議であった、いいスタートであった、これで更に関係を前に進めていければと思っています。こういったことをベースとして、是非私どもも日本の規制当局に対して適切な独立したアドバイスが提供できればと考えております。  
今日は、質問が投げかけられ私共の方から質問にお答えしているわけですが、やり方としてとても良いスタートが切れたのではないかと思います。規制委員会当局もこうい

った形で、日本の国民に訴えかけができたのではないかと思います。

- アンドレ・クロード・ラコスト委員 私も今のお二方がおっしゃった意見と同じ意見で、特に付け加えることはございません。私の方からは IRRS ミッションについてお答えしたいと思います。

このミッションが行われたのが 2007 年 6 月ですから 5 年半前になりますけど、私がチームリーダーで、公式の報告書もまとめたわけですけども、通常こういったミッションというのは 2, 3 年後には、フォローアップがなされるんですが、そのフォローアップは結局なされませんでした。日本政府からの求めもございませんでした。

私の記憶ですとその後、私は、福島事故の 4 ヶ月前 2010 年 10 月に来日したわけですが、私の見解としまして、日本政府は結局、フォローアップをしないと決めたのかというふうに申し上げました。

日本の原子力規制体制は非常に複雑で分かれておりました。日本を三つに分けるとしますと、国民と原子力業界と安全当局と分けられると思いますが、それぞれ一つとして他 2 つに対する信頼がありませんでした。

今は NRA の独立性を担保する新しい法律もできました。以前の原子力安全委員会と、そして、保安院が合体をしたということですが、これは良いことだと思います。独立性も担保され、新しいスタートを切れました。ただ、業界においてはもっと、もっとやるべき事がたくさんあると思います。安全文化然り、組織の問題然りであります。私が以前、調査委員として日本に参った際に、業界の方は「私共は規制を遵守しているのだ。日本の規制は IAEA (国際原子力機関) の原則に則っているんだと、したがって日本にとってこれは良いことなのだ」と繰り返しおっしゃっていたわけですが、やはりなんと言いましても一番大切な事は、安全を担保するという事です。安全の主たる責任は業界にあります。したがって、安全の責任を負う者として業界は、規制を遵守するという事以上にもっと、もっとやらなければいけないわけです。なんと言っても主たる責任は業界にあるからです。

- 司会 よろしいでしょうか。次にご質問のある方いらっしゃいますか。どうぞ。

- 記者 電気新聞のヤマダと申します。

事業者と規制当局の関係について伺いたいのですが、福島事故が起こる前までは、事業者が規制当局に言うことを聞かせるような雰囲気になっていまして、規制当局と事業者が、規制当局が強くて、事業者が下といった関係ではなかったのです。その結果、安全規制がおろそかになって、事故が起こったと考えております。一方で事故が起こった後も、規制委員会ができた後は、規制委員会が事業者との関係をあまり持たないようにしている感じにして、意見交換もあんまりできていないのではという印象も受けております。そこで、規制当局と事業者がどこまでつきあって、どこで一線を引くべきかという、その線引きはどのへんにあるとお考えでしょうか。

○司会 三名の方でよろしいですか。

○記者 三名の方をお願いします。

○アンドレ・クロード・ラコスト委員 当然、これから組織体制としてもいろいろな物事にしても変えていかなければならないという、そういう時期に今あります。フランスの例ですけれども、私共 2006 年に新しい法律が施行されて、いろいろな規制等々やっております中で、本当にまとまった状況になったのは、6 年くらいかかりました。当然、我々としてもできるだけ早くしようと努力はしようとしましたが、ただこれはなんと言っても安全当局と事業者との基本的な問題なのです。ですから変更していくということには時間がかかります。その例として構築しなければいけない点としては、お互いに対する尊重ということがあります。これは必ず達成しなければならないことです。当局の方が事業者よりも強い立場にならないという問題もあるでしょう。しかし、こうゆう新しい関係を築くということですのでどうしても時間がかかります。その後で、皆が良かったといった状況になるのだと思います。こうゆう非常に複雑なことでありますので、どうしても遅れというのは発生してしまうのではないかと思います。今まだ始まったばかりなのです。我々も適宜、是非、助言をさせていただきたいと思っております。

○マイケル・ウェイトマン委員 私としては次のような形でお答えしたいと思います。私の理解、また皆様のご理解ものさうだと思いますけれども、福島事故以前は、規制当局は十分な独立性がなかった。したがって、業界からの影響を十分に免れることができなかった。したがって業界の方が言いたいことを言い、規制当局の方は弱い立場にあったと言うことです。

今回、原子力規制委員会の設立の目的の一つとしては、委員会が権限を持って自らが安全の面で適切であると考えられることができるようにすると、それも政治の影響あるいは、事業者の影響なしにやって、自らが判断したことを実行できるようするということがあったと思います。現在の状況として今ご説明があったのは、NRA が十分に業界とコミュニケーションをとっていないのではないかとということでした。私としては、それが本当にそうなのかどうかコメントできないですし、よく知りません。日本の状況についてよく知りません。ただ、独立して意思決定をするということは、イコール孤立ということではありません。規制当局として、国民、それからまたこの問題に関心を有するすべてのステイクホルダー、そして業界とコミュニケーションが必要です。であって初めて効果的な規制を行うことができますので、やはり、コミュニケーションは極めて重要です。

○リチャード・メザーブ委員 ありがとうございます。色々とお話が出ましたので、私の方から 2 点補言したいと思います。

今日皆さんも気になっていて、お気づきだと思いますけれども、私共もやはり NRA の指導層の方々と同じ意見で、要は客観性・合理性・科学・技術をベースにして判断すべきだと考えております。

私共の助言としましては、そういう判断というのは、みんなが見えるような形でオープンにすべきであるということです。そういうベースで考えますと、その判断がどのようなベースでなされたのか、どういうふうな形で出てきたのかが分かります。そうすると、見ている側の方でもどのくらい NRA は力を有しているのか、そして、今申し上げたような基準で、判断がなされたのかどうかということも判断できるかと思います。

第二点ですけれども、私の隣に座ってらっしゃるメザーブ氏と私も同じ意見ですけれども、業界との関係は基本です。それがあって初めて効果的な規制システムを構築して行くことができます。やはり、必ず正しい適切な関係を持つということ、そして予想しないようなことはしてはならないということ。そして、何を期待しているのかということも明確にするということ。そういう意味で、オープンな形ですべてのレベルにおいてコミュニケーションをとるということが必要です。

ちょうど本日の会議でそのスタートが切られたということが、今日、私は見えたと思っております。

○司会 はい。それではお時間になりましたので会見はここまでにしたいと思います。ありがとうございました。